



読書による人づくりのまち なかつがわ

市民ボランティアの皆さんが活躍しています

● サークル活動で読み聞かせ

市内各地で活動される朗読サークル「こだま」の皆さんによる大型紙芝居「猫山」と「じゅもん」の読み聞かせが2月16日、高山小学校で行われました。

● もっと本を読みたくなった

子どもたちは真剣な眼差しで聞き入り、終了したとき校長先生が「何か感想はありますか」と言われた途端、たくさんの子が手を挙げ、「もっと本を読みたくなった」などの感想を述べてくれました。

その中でも「もう一度、その本を借りて読んでみたい」という子がたくさんいて、サークルの方々も出かけてきた甲斐があったとたいへん喜んでいらっしゃいました。



4月23日は「子ども読書の日」

本は心の栄養剤です。

子どもたちに絵本や紙芝居、本と出合える時間をたくさんつくりましょう。

富安陽子さんから10代のみなさんへメッセージです。

「10代のころ私には大好きな本がありました。「たのしいムーミン一家」講談社トーベヤンソン作です。(略) この本が本当に大好きで表紙がボロボロになるくらい何度も読んだので、自分がムーミン谷に住んでいたような気がするほどです。(略) 10代のころ私はしょっちゅうこのムーミン谷に出かけていました。どんなにへこんで、落ち込んだ時にもムーミン谷にいけばすてきな友達が待っていて、私はまた元気になることができました。

(略) 大好きな本を手に入れるということは、誰にも邪魔されない心の中の秘密の隠れ家だったなと思います。(略)

富安陽子さん

児童文学作家、1959年生まれ、和光大学人文学部文学科卒業、「クヌギ林のザワザワ荘」(あかね書房)で日本児童文学者協会新人賞

*文部科学省 HP「子ども読書の情報館」から引用

■ 将来の財産となる図書館をつくります

これからの図書館は本の貸し借りだけでなく、私たちの「知の拠点」としての役割が求められています。

「読書による人づくり」を進めて、全市的に読書活動を盛んにしていく中で、市民のみなさんの「これが知りたい」というご要望に応えることができる新図書館を目指します。

もちろん済美図書館・各公民館図書室も充実していきます。

● 市民みんなの図書館です

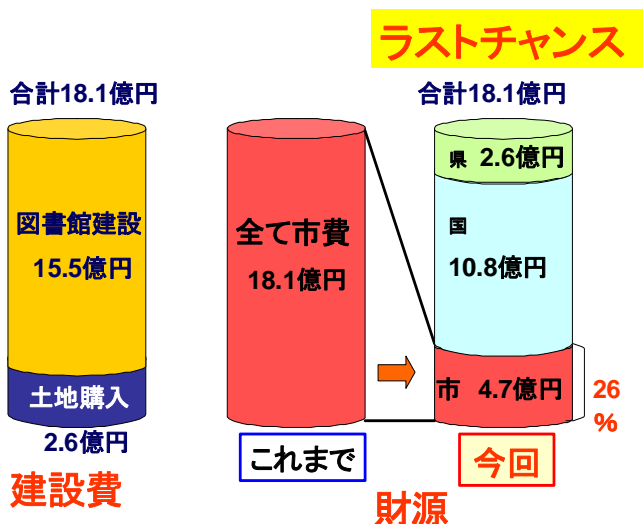
図書館は、次代を担う幼児、保育園・幼稚園児や小学生・中学生・高校生をはじめ、一般成人や高齢者にとっても生活文化情報から地域郷土資料、ビジネス資料など情報化時代といわれる今日、なくてはならない存在となっています。

● 将来の子どもたちのために

50年、100年先を見通した時、教育施設としての図書館は、単なるハコモノでは決してなく、使えば使うほど、時が経てば経つほど、将来に向けて市民の知的財産が蓄積される、とても大切な施設です。



■ 図書館建設は、大変有利な条件でつくります



● 今までも多くの市民要望が

昭和63年12月議会で、新図書館建設の請願が採択されるなど、今まで多くの市民要望がありました。これまで図書館建設には国県の補助金が無く、財政上の理由で先送りしてきました。

● 今がチャンス

一昨年7月に市の中心市街地活性化基本計画が国の認定を受けたことで、平成21年度から図書館建設に国の補助金を活用することが

できるようになりました。更に経済危機に対する国からの臨時交付金や、県の補助金が活用できることになり、市民の負担が一番少なくできる大変有利な条件が整った今をチャンスととらえ、新図書館を建設します。

■ 図書館建設は、市の財政を悪くすることはありません

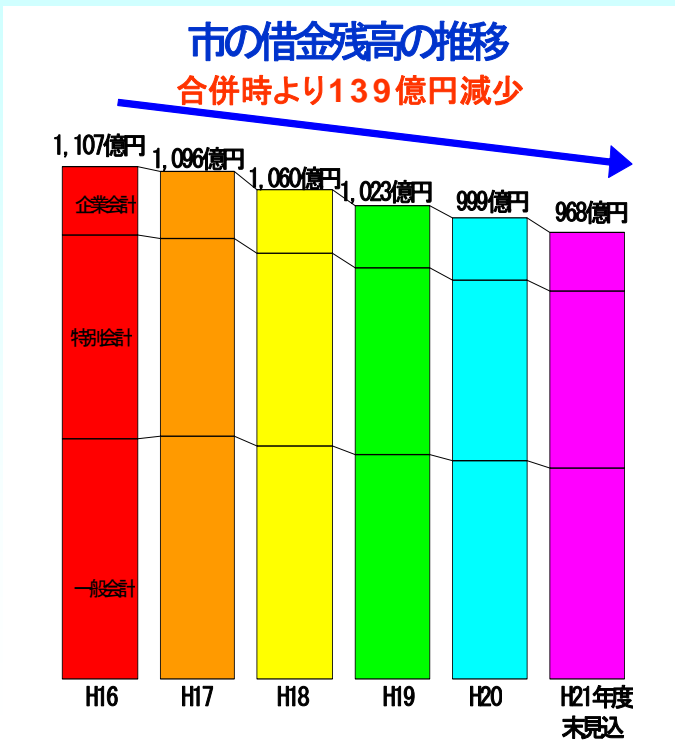
● 5年間で139億円減らしました

「借金を返す以上に借りない」、「国、県の補助金を獲得し、少ない市のお金で事業を実施する」などの基本方針のもと健全財政を確保しています。

合併時にあった8市町村の借金を計画的に減らす「公債費負担適正化計画」に沿って、5年間で139億円減らしてきました。

● 市の財政は悪化しません

新図書館の建設は、この計画の範囲内で借り入れしますので、財政が悪化することは決してありません。



■ より良い図書館にするため、市民参加の協議を進めています

● 中津川市新図書館建設市民協議会で

昨年11月に発足した中津川市新図書館建設市民協議会（公募市民委員5名を含む18名）では、市民の意見を取り入れたすばらしい図書館になるよう、熱心な議論が進んでいます。

● 7月には提言書

1月からは、①全市読書活動の推進・新図書館のセンター機能②新図書館でのサービス・新図書館の管理運営③新図書館の施設・情報ネットワークの3つの部会に分かれ、議論を深めています。

7月には市長に提言書を提出します。



■ 図書館建設で、他のことをおろそかにはしません

多様な市民の皆さんの要望や、経済、産業、住宅、子育て、教育、医療、交通、環境をはじめとする、たいへん広い範囲の事業を進めています。新図書館建設だけに力を入れるということではありません。

平成 22 年度予算（案）に計上しています

- **中学生の通院医療費を拡大助成します!!** 314,217 千円
子育て支援を充実するため、小学生までの医療費助成を中学校 3 年生まで拡大します。
- **子育て中の保護者へ役立つ情報を提供します!!** 5,000 千円
子育て中の保護者が知りたい情報、役立つ情報など、いつでも気軽に欲しい情報を携帯電話で取得できるように、子育て支援情報ネットワークを構築します。
- **公立病院の安定した医師確保、
看護師確保に努めてまいります!!** 134,201 千円
市民病院では透析診療を継続できるよう、名古屋大学腎臓内科医局に強く要請しています。また、医師や看護師の確保に努めてまいります。
- **学力の確実な定着と
学習習慣の定着に努めてまいります!!** 76,860 千円
県下でも高い水準で学校に配置している指導助手を引き続き配置し、少人数指導などを実施し、きめ細かな指導を行うことで、一人ひとりの子どもの学力を伸ばします。

■ 皆さんからいただいた市民アンケート集計中

新図書館の機能、施設、サービスや自由意見を含めて 1 月に実施した市民アンケートは、ただいま集計しています。

集計と分析結果は、これから逐次、市民の皆さんにお知らせしていきます。

- **無作為抽出アンケート（2月19日現在）**
 - ・ 発送数 1,500 名（中学生以上の市民）
 - ・ 回答者数 660 名（回答率 44.0%）
- **図書館利用者アンケート（2月19日現在）**
 - ・ 回答者数 636 名（中央図書館、済美図書館、公民館図書室利用者）

調べもので、お困りのことはありませんか

中央図書館には、図書館司書を配置しています。この司書の役割の大きなことのひとつが、市民の皆さんからのこうした相談に応じ、必要な資料や情報を提供することです。お気軽にお問合せください。

（電話 66-1308 中央図書館）